

4. 外部評価について

(1) 評価方法

ア これまでの経過

鎌倉市の外部評価は、平成16年（2004年）度に事務事業外部評価を、平成18年（2006年）度に施策進行外部評価を導入しました。

そして、令和2年（2020年）度から計画期間がスタートしている第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画の外部評価は、令和4年（2022年）から実施しています。

イ 鎌倉市民評価委員会

鎌倉市民評価委員会は、行政評価アドバイザーが兼ねる専門評価委員と、市政への関心と行政評価の取組へ理解のある市民評価委員からなる外部委員会です。現在評価委員として活動中の委員は以下の通りです。（【】内は本委員会での役職。）

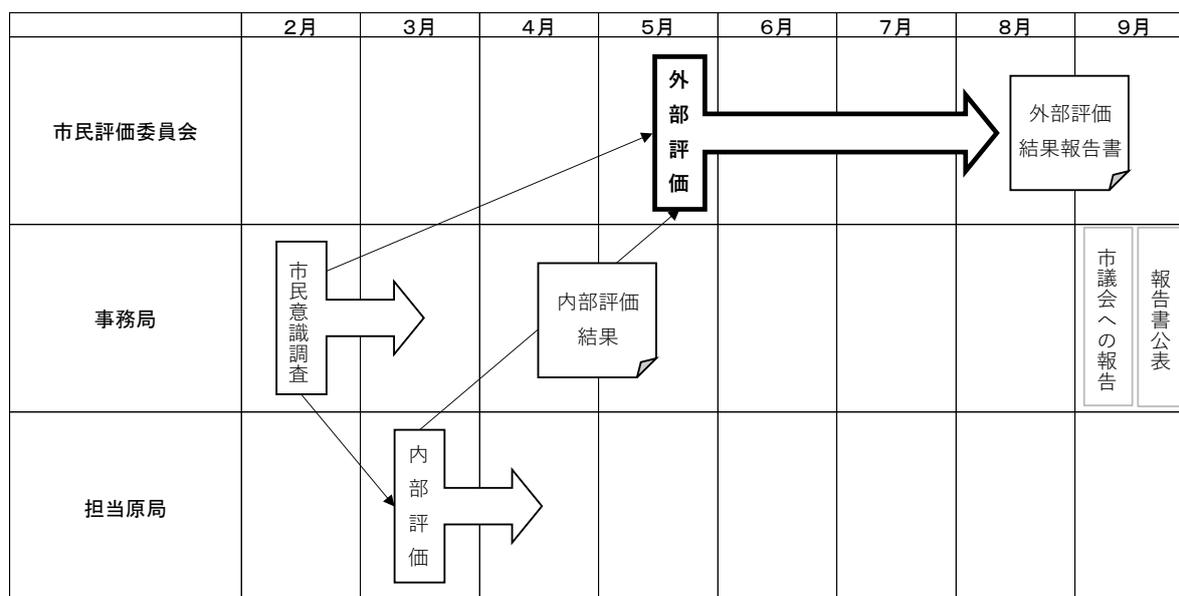
(7) 専門評価委員（行政評価アドバイザーが兼務。）

- ・川口 和英【会長】
- ・柳谷 牧子
- ・山本 清孝

(1) 市民評価委員

- ・柳生 修二【副会長】
- ・奥野 知佳
- ・小野 勝彦
- ・掛川 一代
- ・田中 千恵

ウ 行政外部評価の流れ



エ 令和7年（2025年）度の取組

1996年（平成8年）から始まった鎌倉市基本構想及び同構想に基づく最後の基本計画である第4期基本計画が2025年（令和7年）度で終了します。

現在市では、2026年（令和8年）度からはじまる新たな総合計画（以下「新総合計画」という。）の策定が大詰めを迎えていることから、2025年（令和7年）度の市民評価委員会では、新総合計画へつながる視点での外部評価を実施することとしました。

今年度の外部評価は、これまでの外部評価でも常に議論となっていた指標について、過去3年間の市民評価委員会において、原局ヒアリングを実施した施策に位置付けられる指標を対象に評価を行うこととし、評価手法としては、書面評価を実施しました。

(7) 指標の評価

令和7年（2025年）度は、市民評価委員会の委員全員で協議した結果、指標に対する評価として、書面評価（3回）を行いました。

対象の施策は、次のとおりです。

- ・ 3-(3)-③次代に向けたエネルギー・環境対策の推進
- ・ 4-(2)-①子育て家庭への支援
- ・ 4-(3)-①教育内容・環境の充実
- ・ 4-(3)-②学校施設の管理・整備
- ・ 4-(4)-①青少年の育成・支援
- ・ 5-(1)-①防災・減災対策の充実
- ・ 5-(1)-②危機管理対策

- ・ 5-(2)-①市街地整備の推進
- ・ 5-(3)-①交通環境の整備
- ・ 6-(1)-②商工業振興の充実
- ・ 6-(2)-①観光振興の推進
- ・ 6-(2)-②観光基盤の整備・充実

(イ) 令和7年(2025年)度 行政外部評価に係る鎌倉市民評価委員会日程・内容

	日 程	内 容
1	5月22日 (市役所 203 会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会長及び副会長の選任について ・ 令和7年(2025年)行政外部評価について
2	6月20日 (市役所 201 会議室)	<p>【指標の書面評価①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3-(3)-③次代に向けたエネルギー・環境対策の推進 ・ 4-(2)-①子育て家庭への支援 ・ 4-(3)-①教育内容・環境の充実 ・ 4-(3)-②学校施設の管理・整備
3	7月8日 (市役所 201 会議室)	<p>【指標の書面評価②】</p> <p>原局ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4-(4)-①青少年の育成・支援 ・ 5-(1)-①防災・減災対策の充実 ・ 5-(1)-②危機管理対策 ・ 5-(2)-①市街地整備の推進
4	7月14日 (市役所 201 会議室)	<p>【指標の書面評価③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5-(3)-①交通環境の整備 ・ 6-(1)-②商工業振興の充実 ・ 6-(2)-①観光振興の推進 ・ 6-(2)-②観光基盤の整備・充実
5	8月4日 (市役所 201 会議室)	<p>【令和7年度行政外部評価まとめ】</p> <p>総論、意見交換</p>

(ウ) 評価方法

鎌倉市が作成した評価シートを参考に、専門評価委員と市民評価委員が令和7年(2025年)度行政外部評価シートを作成し、各施策の「目標とするまちの姿」と「主な取組」を確認し、目標と取組の関係や目標の実現度合い等について委員会の議論を経て、位置付けられている指標について、【施策の効果】、【取組の効果】、【意見】の3つの視点からとりまとめました。

- a 【施策の効果】
「計れる」、「計れない」、「わからない」の3つから選択
- b 【取組の効果】
「計れる」、「計れない」、「わからない」の3つから選択
- c 【意見】
自由記述

(2) 総評

行政評価アドバイザー 専門委員

鎌倉市民評価委員会会長 川口和英

1. はじめに

鎌倉市における事務事業評価は2003年（平成15年）度からはじまり、毎年実施されてきた。一方、鎌倉市民評価委員会による施策進行外部評価は、2006（平成18年）度の試行を経て、翌2007年（平成19年）度から本格的に実施されている。

こうした中で、1996年（平成8年）からはじまった鎌倉市基本構想及び同構想に基づく最後の基本計画である第4期基本計画が2025年（令和7年）度で終了する。

現在市では、2026年（令和8年）度からはじまる新たな総合計画（以下「新総合計画」という。）の策定を進めているが、その作業も大詰めを迎えている。こうした状況を踏まえ、2025年（令和7年）度の市民評価委員会では、新総合計画へつながる視点での指標に特化した外部評価を実施することとした。

2. 令和7年度外部評価の視点

第4期基本計画に対する外部評価は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、2022年（令和4年）度から実施している。2022年（令和4年）度、2023年（令和5年）度、2024年（令和6年）度の外部評価は、行政の内部評価結果を踏まえ、第4期基本計画の評価対象となっている政策・施策体系は妥当か、「目標とするまちの姿」と「主な取組」が整合しているか、将来都市像から主な取組までの上下関係・区分けは妥当か、等の視点から多角的に議論を行ってきた。これは、新総合計画で施策を位置付ける際の参考とされてきたものと考えられる。

他方で、上述のとおり、既に新総合計画の策定作業が大詰めとなっている段階で、例年と同様の外部評価を行う必要があるのかという点が課題となった。こうした中で、これまでの外部評価において常に議論となってきた事項として、施策に位置付けられている指標についての問題があった。その指標は、はたして施策の取組の効果を計るのに適しているのか、その指標がそもそも何について捉えているものなのか、また、指標の成果を捉えるにあたっての市民アンケートの回答結果が指標として適切なのか等については、毎年度の外部評価において課題として議論の俎上に上る一方、指標に特化してさらに議論を深めることは、時間の都合等から、これまで十分にできてこなかった。一方で、新総合計画の進行管理手法の構築作業は、これから本格化する段階にあり、2025年（令和7年）度の市民評価委員会において、これまでの外部評価を踏まえながら、指標に特化した評価を行うことは、新総合計画の進行管理手法の構築に向けて有意義であると考えられる。進め方としては、第1回（5月）で指標に対する外部評価を行うことの確認、第2回（6月）、第3回及び第4回（7月）で委員間による協議・意見交換、第5回（8月）にまとめの手順を進めた。

第4期基本計画に位置付けられている施策の「目標とするまちの姿」と「主な取組」を確認し、目標と取組の関係や目標の実現度合い等について、位置付けられている指標で計ることができるのか、位置付けられている指標は「施策の効果」を計れるものなのか、「取組の効果」を計れる

ものなのかという視点で評価を行った。

第1回市民評価委員会	2025年（令和7年）5月22日（木）10時～12時
第2回市民評価委員会	2025年（令和7年）6月20日（金）10時～12時
第3回市民評価委員会	2025年（令和7年）7月8日（火）10時～12時
第4回市民評価委員会	2025年（令和7年）7月14日（月）10時～12時
第5回市民評価委員会	2025年（令和7年）8月4日（月）15時～17時

3. 令和7年度外部評価の対象分野

2025年（令和7年）度の外部評価は、上述のとおり、指標に対するものであるが、指標の評価を行うに際しては、行政の取組をより理解できている施策を対象とすることが望ましいと考えた。そこで、2022年（令和4年）度から2024年（令和6年）度までの3年間の市民評価委員会において、原局ヒアリングを実施した下記の施策に関する指標を対象とした。

3-(3)-③次代に向けたエネルギー・環境対策の推進

- ①照明をこまめに消す、LED照明を使用するなど、電気を賢く使用する市民の割合
- ②市の業務全体から生じる二酸化炭素排出量（エネルギー起源）
- ③市の施設における電気使用量
- ④市内の再生可能エネルギー導入率

4-(2)-①子育て家庭への支援

- ①合計特殊出生率
- ②地域で子育てを支えるまちが実現していると感じる市民の割合
- ③乳幼児健診の受診率
- ④「子育てに関する情報を得やすい」と感じている市民の割合
- ⑤幼稚園預かり保育対象者数
- ⑥子育て支援センター（つどいの広場）の利用者数

4-(3)-①教育内容・環境の充実

- ①将来に夢や希望を持てる児童生徒の割合
- ②小・中学校における特別支援学級の設置率
- ③「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したかにおいて、ほぼ毎日と回答した児童・生徒の割合

4-(3)-②学校施設の管理・整備

- ①小・中学校における特別支援学級教室の設置率
- ②トイレの洋式化率
- ③みんなのトイレの設置率

4-(4)-①青少年の育成・支援

- ①放課後かまくらっ子に参加した中高生の数
- ②放課後かまくらっ子の推進支援に参画した大学生の数
- ③居場所に関するアンケート調査において「居心地の良い場所があるか」との問いに対し「いいえ」と回答した割合

5-(1)-①防災・減災対策の充実

- ①公共建築物の耐震化率（災害時の拠点となる施設）
- ②市内の通学路における危険ブロック塀等の改善率
- ③自宅周辺の自然災害リスクを知っている市民の割合

5-(1)-②危機管理対策

- ①危機管理体制整備のための取組が適切になされていると思う市民の割合

5-(2)-①市街地整備の推進

- ①まちづくりが計画的に進められ、生活しやすい市街地が形成されているまちだと感じている市民の割合

5-(3)-①交通環境の整備

- ①市内における自動車の旅行速度
- ②幹線道路については、スムーズな交通環境が、また、生活道路については、安全な歩行空間が、確保されているまちだと感じている市民の割合
- ③新たな交通（移動）システムや手段を導入した地区数

6-(1)-②商工業振興の充実

- ①市内事業所における従業者数
- ②市内の事業所数
- ③身近な商店街において、便利で魅力的な買い物ができていると思う市民の割合

6-(2)-①観光振興の推進

- ①一人当たり観光消費額（宿泊客）
- ②一人当たり観光消費額（日帰り客）
- ③観光客の平均滞在時間数

6-(2)-②観光基盤の整備・充実

- ①公衆トイレのバリアフリー化率
- ②観光案内看板の多言語対応率

4. 令和7年度外部評価の体制

行政評価アドバイザー（専門評価委員）3名、市民評価委員5名により、計5回にわたる評価を行った。

5. 指標のあるべき姿

上述の35指標について評価する中で見えてきた課題と提言は以下のとおりである。

○ 市の施策（取組）の結果を計る指標とする（市の施策（取組）と関係がある指標や総合計画に位置付ける取組の成果であることが明確な指標とする）

3-(3)-③-④市内の再生可能エネルギー導入率、5-(3)-①-①市内における自動車の旅行速度のように、市の施策（取組）を行ったことによる結果であることがわからない指標では、行政の取組に対する評価に適する指標とは判断できない。（市の具体的な、どの施策がこの効果、この成果に結びついているのかがわからない。）

○ 実績値の定義を明確にする

5-(1)-①-②市内の通学路における危険ブロック塀等の改善率 のように、箇所数なのか、延長なのか、6-(2)-①-③観光客の平均滞在時間 のように、滞在時間 4.8 時間（令和 5 年度実績）が意味するところがわからなければ、適切な評価に用いることができない。特に、危険ブロック塀等の改善率は、毎年 2.5 ポイントずつあげてあるが、根拠は不明である。平均滞在時間の向上は何を狙ったものかの説明が必要である。

○ 実績値はできるだけ直近の数値が計れるものとする

4-(2)-①-①合計特殊出生率 のように、実績値の確認ができるのが翌々年度となる指標、6-(1)-②-①市内事業所における従業員数 のように、経済センサス活動調査確報値が算出されるまでわからない指標では、評価対象年度の取組に対する評価に用いることができない。市で評価できる独自の指標などは無いか、代替できる指標などの検討ができないかを考える必要がある。

○ 実人数で捉えるべき指標か割合で捉えるべき指標かを明確にする

4-(4)-①-①放課後かまくらっ子に参加した中高生の数 のように、全体的に対象者数が変動しているようなものは、実数ではなく割合で捉えなければ適切な評価に用いることができない。特に、放課後かまくらっ子に参加した子どもが、将来地域の担い手となる青少年の育成にどうつながるかなどを加味して、検討することが必要である。

○ 施策の対象として適当な対象者となる指標とする

4-(4)-①-①放課後かまくらっ子に参加した中高生の数 のように、青少年施策の対象者として中高生だけでよいのかという視点を持ち、適当な対象者に関する指標を設定すべきである。特に、放課後かまくらっ子に参加した中高生の数、大学生の数で、計測できる指標であるかを考える必要がある。

○ 単純に数字を追うべき指標か、国・県等と比較すべき指標かを見定める

4-(2)-①-①合計特殊出生率 のように、鎌倉市の数字だけで捉えるのではなく、国・県等と比較することで、市の施策（取組）に対する評価ができるものは、比較を用いるようにする。

○ 計画期間内に完了できる目標値を設定する

5-(1)-①-①公共建築物の耐震化率 のように、計画期間内の達成が困難な指標は設定するべきではない。（令和 2 年度から令和 6 年度までの間、目標値 100%、実績値 97.6%で、達成ができない残り 2.4%の状況が継続し、変化がない。）

○ アウトプット指標のみになるのであれば、関連するすべてのアウトプット指標も設定する

5-(1)-①-①公共建築物の耐震化率 のように、この指標だけでは、位置付けられる施策の効果として不十分な場合には、例えば、防災拠点へのアクセスに関する指標やソフト面での防災に関する取組に関する指標なども加える等の工夫をすることで、全体として、施策全体の評価を行うことができるようになる。

○ 「目標とするまちの姿」や「主な取組」との関係がわかる指標とする

6-(2)-①-①一人当たりの観光消費額 のように、「目標とすべきまちの姿」や「主な取組」とはどのような関係なのか、目標や取組のどの部分を計るものなのかが確認できる指標の設定や、指標と目標、指標と取組の関係を明確にすべきである。「計画の推進」に向けて、改めて詳細な検討、構成としての、わかりにくさを解消しながら、論理的な構成や、「目標とするまちの姿」と「主な取組」が、適切に設定されていくことが必要である。

○ 「目標とするまちの姿」に複数の要素が含まれている場合は、全ての要素に係る指標を設定する

6-(1)-②商工業振興の充実 のように、「目標とすべきまちの姿」に、経営基盤の強化、事業拡大、新産業立地、雇用創出、商店街の活性化及び伝統工芸品の保護・育成と、複数の要素が含まれている場合には、それぞれの要素の成果を確認できる指標を設定すべきである。

○ 必ず目標値を設定する必要があるかを考える

市民（対象者）の満足度は、向上（低下）させればよく、必ず何%にすべきというものではない。他方で、待機児童数や交通事故発生件数等のように、目標値を明確に設定できるものもあり、必ず目標値を設定すべき指標か否かを見極めることが必要である。指標の設定値の単位を何とするか、検討すべきである。

6. 市民アンケートのあり方

多くの指標で用いられる市民アンケートについては、施策評価という成果（アウトカム）を求める性質から、アンケートにより数値を捉えること自体は否定されるものではないが、出来る限りの客観性を確保するためには、その調査手法について、下記の点に留意すべきである。

・ 目標とするまちの姿を体現する設問とする

・ 漠然とした設問は適当ではない

→4-(3)-①-①将来に夢や希望を持てる児童生徒の割合。

大事な指標であるが、市の施策がどのように、この成果指標に繋がったのかが、不明である。目標値としての指標をどのように設定しているのかがわからない。

・ 異なる要素・課題を一つの設問で訊くことは適切ではない

→5-(3)-①-②幹線道路については、スムーズな交通環境が、また、生活道路については、安全な歩行空間が、確保されているまちだと感じている市民の割合。

市民アンケートによるもので、市民の実感に基づくもの。どの施策がこの効果、成果に結びついているのかがわからない。目標値がどのように設定されているのかがわからない。

→6-(1)-②-③身近な商店街において、便利で魅力的な買い物ができていると思う市民の割合。

・ 回答者によって設問内容の受け止めが異なる設問は適当ではない。（どの施策がこの効果、成果に結びついているのかがわからない設問は適当ではない。）

→3-(3)-③-①照明をこまめに消す、LED照明を使用するなど、電気を賢く使用する市民の割合。

成果自体は環境にとってよいことと思われる。環境教育、市民の環境意識などによる指標と思われる。どの施策がこの効果、成果に結びついているのかがわからない。

・ ターゲットを絞るべき設問は回答者を限定する

→4-(2)-①-④「子育てに関する情報を得やすい」と感じている市民の割合。

市民の実感に基づくもの。どの施策がこの効果、成果に結びついているのかがわからない。

・ 目標と合致する設問を設定する

→6-(1)-②商工業振興の充実の「目標とするまちの姿」…商店街の活性化

6-(1)-②-③身近な商店街において、便利で魅力的な買い物ができていると思う市民の割合。

市民の実感に基づくもの。「身近」、「便利」、「魅力」の3つの問いが含まれているため、回答者の判断が一定にならない。

- ・ネガティブ・ポジティブに揃えた設問にする
- ・設問の流れで回答が誘導されないような設問にする
- ・できる限り客観的に計れるようにする

なお、できる限り客観的に計るための手法として、「目標とすべきまちの姿」の実現度ではなく、「施策名」のみを示し、同施策に対する市の取組の満足度とその理由（一言）を問うという手法（つくば市に類似事例あり）もあることを付言する。

7. 総評

今回、令和8年（2026年）度を初年度とする新総合計画の策定作業が進められているなか、2025年（令和7年）度の市民評価委員会では、特に指標について外部評価を実施した。策定にあたり、適切な基本的指標を検討していく必要があり、対象分野の35指標について、専門評価委員3名および市民評価委員5名により、5回にわたり評価を実施した。

特に施策の取組（アウトカム）と、取組の成果（アウトプット）については、改めてその意味と違いを考えながら、基本的な検討をしていく必要があることが確認された。例えば、(2)再生可能エネルギー等の導入と低炭素まちづくりの推進についてみた場合、市の施設における電気使用量(kWh)という指標については、エコアクション21実績により算出され、明確な数値目標としてアウトカムの指標としてとらえることができる。一方、(1)青少年の居場所づくりについて、放課後かまくらっ子に参加した中高生の数(人)は、アウトカム指標ではあるが、鎌倉市全体の(1)青少年の居場所づくりを評価する指標としてふさわしいかは、説明力として十分ではない面がある。一方放課後かまくらっ子運営協議会開催回数はアウトプットの成果である。また、(3)職員・市民の危機意識の醸成に対して、成果指標「危機管理体制整備のための取組が適切になされていると思う市民の割合」は、市民アンケート由来のアンケートデータで、市民の実感に基づくものであり、具体的に、市のどの施策がこの効果、成果に結びついているのかがわからない等の指摘がみられた。

このように「目標とするまちの姿」と「施策」との関係や体系上の位置づけについての整合性、また個別事業の時代的背景の必要性など時代の趨勢と将来をみながら、次期計画を意識し、適切にその姿を描いていく必要がある。社会の時代的変化が激しいなか、「計画の推進」に向けて、市民感覚を持ち、民間の立場からも、改めて詳細な検討、構成としての、わかりにくさを解消しながら、論理的な構成や、「目標とするまちの姿」と「主な取組」が、適切に設定されていく必要がある。

改めて指標の評価作業を行うなかで、対象分野につき評価委員から様々な意見や指摘が出された。市民評価委員からの指摘は、いずれも重要なものが多かった。一方、今回も検討時間は限られていたが、多くの時間を割き情報を整理し、委員会における真摯な議論の姿勢に敬意を表したい。また、事務局および原局におかれても、委員からの質疑リクエストへの対応、その準備、とりまとめ他、多大な作業をこなしていただいたことに、感謝申し上げたい。

今回は35指標に関する検討であったが、他分野の指標についても、「目標とするまちの姿」と「主な取組」の関係や体系上の位置づけを確認し、新総合計画の策定に向けて、現在検討中の指標が適切であるか、説明力を十分もつか等、各担当部局が吟味、詳細に再度ご検討され、反映していかれることを願いたい。改めて、本外部評価が、新総合計画の執行管理手法の構築に役立てば幸いである。

(3) 令和7年度行政外部評価結果

ア 令和7年度行政外部評価結果

今年度の評価は、指標の評価を行いました。
各指標に対する「意見」は次ページ以降に記載しています。

市民評価委員8名のうち「◎計れる」と評価した委員の数（網掛け：過半数が「計れる」としたもの）

施策の方針	成果指標	施策	取組
3-(3)-③次代に向けたエネルギー・環境対策の推進	①照明をこまめに消す、LED照明を使用するなど、電気を賢く使用する市民の割合	0	0
	②市の業務全体から生じる二酸化炭素排出量（エネルギー起源）	4	2
	③市の施設における電気使用量	5	5
	④市内の再生可能エネルギー導入率	5	5
4-(2)-①子育て家庭への支援	①合計特殊出生率	3	3
	②地域で子育てを支えるまちが実現していると感じる市民の割合	4	3
	③乳幼児健診の受診率	5	5
	④「子育てに関する情報を得やすい」と感じている市民の割合	4	4
	⑤幼稚園預かり保育対象者数	3	3
	⑥子育て支援センター（つどいの広場）の利用者数	子育て支援センター つどいの広場	3 1
4-(3)-①教育内容・環境の充実	①将来に夢や希望を持てる児童生徒の割合	1	1
	②小・中学校における特別支援学級の設置率	4	6
	③「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したかにおいて、ほぼ毎日と回答した児童・生徒の割合	0	0
4-(3)-②学校施設の管理・整備	①小・中学校における特別支援学級教室の設置率	5	6
	②トイレの洋式化率	3	3
	③みんなのトイレの設置率	3	3
4-(4)-①青少年の育成・支援	①放課後かまくらっ子に参加した中高生の数	3	3
	②放課後かまくらっ子の推進支援に参画した大学生の数	3	2
	③居場所に関するアンケート調査において「居心地の良い場所があるか」との問いに対し「いいえ」と回答した割合	1	0
5-(1)-①防災・減災対策の充実	①公共建築物の耐震化率（災害時の拠点となる施設）	3	3
	②市内の通学路における危険ブロック塀等の改善率	2	4
	③自宅周辺の自然災害リスクを知っている市民の割合	2	1
5-(1)-②危機管理対策	①危機管理体制整備のための取組が適切になされていると思う市民の割合	0	0
5-(2)-①市街地整備の推進	①まちづくりが計画的に進められ、生活しやすい市街地が形成されているまちだと感じている市民の割合	0	0
5-(3)-①交通環境の整備	①市内における自動車の旅行速度	1	1
	②幹線道路については、スムーズな交通環境が、また、生活道路については、安全な歩行空間が、確保されているまちだと感じている市民の割合	1	1
	③新たな交通（移動）システムや手段を導入した地区数	1	3
6-(1)-②商工業振興の充実	①市内事業所における従業者数	1	2
	②市内の事業所数	1	2
	③身近な商店街において、便利で魅力的な買い物ができていると思う市民の割合	3	0
6-(2)-①観光振興の推進	①一人当たり観光消費額（宿泊客）	2	1
	②一人当たり観光消費額（日帰り客）	3	2
	③観光客の平均滞在時間数	4	3
6-(2)-②観光基盤の整備・充実	①公衆トイレのバリアフリー化率	5	4
	②観光案内看板の多言語対応率	4	5

イ 令和7年度行政外部評価シート

《意見の区分》

総合計画上の位置付け	分野 3-(3) 生活環境	施策の方針	3-(3)-③次代に向けたエネルギー・環境対策の推進
目標とするまちの姿	エネルギー・環境に関心の高い市民・NPO・事業者との連携により、太陽光や豊かなみどりなどの「資源」を余すことなく活用し、省エネ・創エネ・蓄エネの取組が積極的に進められています。さらにライフスタイルや企業活動の転換とともに、再生可能エネルギー等の導入や低炭素型の社会への移行が進んでいます。		

- ◎計れる
- 計れない
- △わからない
- その他

成果指標①	照明をこまめに消す、LED照明を使用するなど、電気を賢く使用する市民の割合							出典	市民アンケート調査		外部評価			
令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
初期値	88.5	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	%	◎計れる	0	◎計れる	0	
		実績値	未実施	91.7	91.8	91.7	92.6			●計れない	5	●計れない	6	
		達成率	—	101.9%	102.0%	101.9%	102.9%		%	△わからない	3	△わからない	2	

《意見》

●実際の行動と自己申告にはギャップがあり、さらに「こまめに消す」という表現が曖昧で、基準が人によって違う。
 ●照明は消した方が良い場合と、条件によっては付けっぱなしの方が良い場合がある。LED照明についても、全てなのか、1箇所でも良いのか基準が不明である。
 ●環境負荷をどの程度軽減したかを把握することが望ましい。アウトプット、アウトカムを意識した指標である必要がある。
 ●エネルギーを節約するための具体的な項目をいくつか設定し、それらの項目ごとの手段やアドバイス(コツ)を周知し、それらの項目ごとにアンケートで実施状況を訪ねるようなかたちにすれば、効果が見やすくなると思う。
 ●成果自体は環境にとってよいことと思われる。照明をこまめに消す、LED照明を使用することについては、環境教育、市民の環境意識などによる指標と思われるが、どの施策がこの効果、成果に結びついているのかわからない。

成果指標②	市の業務全体から生じる二酸化炭素排出量(エネルギー起源) (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)							出典	鎌倉市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)		外部評価			
平成29年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
初期値	18.874	目標値	18,333	17,791	17,250	16,709	16,168	15,626	t-CO2	令和6年9月に令和5年度エコアクション21実績に基づき算出予定	◎計れる	4	◎計れる	2
		実績値	16,473	8,366	8,751	9,038	未定		%		●計れない	2	●計れない	3
		達成率	111.3%	212.7%	197.1%	184.9%	—				△わからない	2	△わからない	3

《意見》

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。エコアクション21の実績により、算出されている。
 ◎節電、環境にやさしい設備、機器、車両等の導入の結果としての二酸化炭素排出量の削減ということであれば、アウトカムの測定としては良いと考える。
 △全体の成果としてはわかりやすいと思うが、その内訳(エネルギー別)、および内訳ごとの推移、変動の理由などを見ないと、成果としての十分な判断は難しい。(例えば、「原発の稼働が増えた」が理由だと、それは市としての取組の成果とは言えないのでは)
 □令和3年時点で令和7年までの目標をクリアしているのなら、指標の値を変更するか、新たな指標を新規に設定した方がよい。

成果指標③	市の施設における電気使用量							出典	鎌倉市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)		外部評価			
平成29年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
初期値	35,248,779	目標値	34,835,194	34,421,609	34,008,024	33,594,439	33,180,854	32,767,269	kWh	令和6年9月に令和5年度エコアクション21実績に基づき算出予定	◎計れる	5	◎計れる	5
		実績値	34,168,769	35,662,359	34,697,488	34,472,738	未定		%		●計れない	2	●計れない	1
		達成率	102.0%	96.5%	98.0%	97.5%	—				△わからない	1	△わからない	2

《意見》

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。エコアクション21の実績により、算出されている。
 ◎考え方でアウトカムの測定ともアウトプットの測定ともいえるかと思う。ここでは、節電というアウトプットを測定しているものと考え、妥当な指標であると考えられる。
 □大幅な成果は出づらいいと思うが、具体的な数値として算出し続けることが重要だと思う。

成果指標④		市内の再生可能エネルギー導入率						出典	環境省自治体排出量カルテ		外部評価			
平成28年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
初期値	1.1	目標値	1.2	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	%	環境省が令和7年4月(予定)に公表する資料に掲載される	◎ 計れる	5	◎ 計れる	5
		実績値	1.6	1.7 1.9	2.0	2.1	未定				● 計れない	1	● 計れない	1
		達成率	133.3%	118.8%	105.3%	116.7%	—				△ わからない	2	△ わからない	2

<<意見>>

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。エコアクション21の実績により、算出されている。わずかに増加傾向にあるが、数字は低い。
●これが「市役所・関心の高い市民・NPO・事業者」を合計した指標だと思うが、そもそも「施策の効果」や「取組の成果」により推移するようなものではないと思う。
△考え方の視点は良いが、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」に限定して測定された数値であり、数値の妥当性が不明なため指標として妥当か否かの判断がつかない。
△指標および成果の設定・結果は評価できる。取組→成果の関連について詳しく知りたい。
□市民レベルでも、再生可能エネルギーを導入することをすすめていくという目標なので、市民の再生可能エネルギーの導入率を成果指標とすると分かりやすい。
□市民への啓発イベントや初期投資を抑える県の制度を紹介するなど、導入率をあげている。

総合計画上の位置付け	分野 4-(2) 子育て	施策の方針 4-(2)-①子育て家庭への支援
目標とするまちの姿	地域と関係団体等との連携が進み、多様化・複雑化する子育てニーズへの対策が充実し、子育ての不安や悩みを解消するための環境が整備され、地域全体で子育て家庭への支援が行なわれています。鎌倉版ニューボラにより、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援が充実しています。	

成果指標①		合計特殊出生率							出典		外部評価			
初期値	平成29年	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
	1.18	目標値	1.22	1.23	1.24	1.26	1.27	1.28	%	公表は翌々年度となるため記載不可	◎ 計れる	3	◎ 計れる	3
		実績値	1.15	1.2	1.16	未定	未定	● 計れない			1	● 計れない	1	
		達成率	94.3%	97.6%	93.5%	—	—	△ わからない			4	△ わからない	4	

＜意見＞

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
◎取組の内容が出生率を上げることに結びつくものなのかどうか判断が難しいが、指標としてはあっても良いと考える。
□出生率が増えていることは評価できる。
□国の制度や社会構造の影響が大きく、市でできることは限定的ではあるが、「子どもを望む人が安心して産み育てられる環境」の整備は必要である。「子どもを持ちたい人の希望出生数を叶える」為の環境作りが必要である。

成果指標②		地域で子育てを支えるまちが実現していると感じる市民の割合 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)							出典		外部評価			
初期値	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
	43.3	目標値	45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	%		◎ 計れる	4	◎ 計れる	3
		実績値	未実施	57.9	51.3	53.6	57.1	● 計れない			2	● 計れない	4	
		達成率	—	125.9%	109.1%	111.7%	116.5%	△ わからない			2	△ わからない	1	

＜意見＞

●「実現していると感じる」ということの意味が「効果ある施策が実施され、取組の成果が出ていると感じるか？」という意味だと理解され回答されているかがわかりにくい。
●「感じている」という「感覚」による評価はあいまいであり、個人差がある。又、「市民アンケート」では調査対象内の子供がいる家庭とない家庭に対する調査数が毎年違うため、一律の評価結果が得られない。
△数値が上がったり下がったりしているので、市の取組が効果を示しているとは感じられない。
△アンケートは統計学的に概ね妥当であると判断し、成果(アウトカム)を測定しているものと考え。一方で、どの取組が本指標に関連しているのかが分からず、事業の実施結果(アウトプット)は測定できていないと考える。
□多様化、複雑化する子育て世代の保護者への対応に細かく対応されていると感じるが、人手不足、予算不足も感じる。現状維持の事業も多いが、「子どもまんなか社会」に向けて、予算、ソフト、ハード面、ともにより一層の充実を期待する。

成果指標③		乳幼児健診の受診率							出典		外部評価			
初期値	平成30年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
	4か月児 96.0 お誕生前 95.4 1歳6か月児 96.2 3歳児 94.3	目標値	96.4	96.8	97.2	97.6	97.8	98.0	%		◎ 計れる	5	◎ 計れる	5
		実績値	95.9	96.4	96.9	97.4	97.9	98.0			● 計れない	2	● 計れない	1
		達成率	96.5	96.8	97.2	97.6	97.8	98.0			△ わからない	1	△ わからない	2

＜意見＞

◎わかりやすい指標である。一方、常に高い数値の指標であり、通常の数値がでない際の課題を明らかにされたい。
◎この数値は普通にとっていき、100%を目指した受診率となる取組を考えていただければよいと思う。単純に数値だけを見ると、かなり高い数値のように思うが、この受診されなかった場合の理由を正しく把握し、そこにどのような問題があるかを探り、対応されているということが条件となる。
△少しずつだが上昇しているのは、施策の効果として評価できる。ただ、これが市の取組の成果かどうかは、この数値だけでは判断できない。
□母子手帳交付時の丁寧な説明などにより、受診率がほぼ100パーセントに近いことは、出生児をケアしていく上でとても重要である。

成果指標④		「子育てに関する情報を得やすい」と感じている市民の割合						出典		市民アンケート調査		外部評価			
初期値	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
	39.3	目標値	40.0	41.0	42.0	43.0	44.0	45.0	%		◎ 計れる	4	◎ 計れる	4	
		実績値	未実施	52.6	47.9	51.6	53.3	● 計れない			2	● 計れない	3		
達成率		—	128.3%	114.0%	120.0%	121.1%	△ わからない	2	△ わからない		1				

＜意見＞

●市民アンケートによるもので、市民の実感に基づくもの。どの施策がこの効果、成果に結びつているのかわからない。
 ●「感じている」という「感覚」による評価はあいまいであり、個人差がある。又、「市民アンケート」では調査対象内の子供がいる家庭といない家庭に対する調査数が毎年違うため、一律の評価結果が得られない。
 ●アンケートの妥当性に信頼をおけないことから、測定できないものとする。実績把握初年度時点で令和7年度の目標を超えているので評価の再設定を行ってもよいのではないかと。
 ●情報を得ようとしている人を基準に考えて、むしろ、得にくいと感じている人の割合を減らすという視点がわかりやすいように感じる。(質問内容は「得にくいと感じていますか?」のほうがよいと思う)
 ●実際に支援を受ける家庭数など分かるとよい。
LINEやインターネットなど様々な形で情報発信があると感じる反面、自分の知りたい情報がなかなか辿り着けないので、さらなる工夫を期待したい。

成果指標⑤		幼稚園預かり保育対象者数						出典		幼稚園・認定こども園(幼稚園部分)預かり保育延べ人数調査		外部評価			
初期値	平成30年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
	62,427	目標値	63,791	63,103	62,381	61,710	60,988	60,988	人	9月頃公表予定	◎ 計れる	3	◎ 計れる	3	
		実績値	36,424	48,006	52,085	51,052	未定	● 計れない			1	● 計れない	1		
達成率		57.1%	76.1%	83.5%	82.7%	—	△ わからない	4	△ わからない		4				

＜意見＞

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 △数値をなぜこのように設定しているのかわからないため、目標値の妥当性が分からず、指標として適切なのか、また達成率を出したところでその意味が何か分からない。
 ●「預かり保育延べ人数」は「預かり保育対象者数」ではないように思う。預かり保育の必要数が充足できているということは、この指標では見えない。
 ●成果指標⑤⑥同様だが、総数でなく割合で示していただくと、どれ程のニーズがあるかが分かりやすい。
保育園の一時預かり保育は希望者が多く、希望の日に予約が取れない。抽選で月1回などの制約があると聞いている。ニーズがふえているのも原因かと思うが、希望の日に預けられるようにしてほしい。

成果指標⑥		子育て支援センター(つどいの広場)の利用者数						出典		①子育て支援センター活動報告書 ②つどいの広場年間集計表		外部評価			
初期値	平成30年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
	39,771	①子育て支援センター	目標値	37,227	37,115	37,264	36,557	38,050	38,496	人		◎ 計れる	3	◎ 計れる	5
			実績値	15,170	20,384	26,761	40,743	44,336	● 計れない			2	● 計れない	1	
達成率			40.7%	54.9%	71.8%	111.5%	116.5%	△ わからない	3	△ わからない		2			
3,597	②つどいの広場	目標値	2,824	2,789	2,754	2,718	446	0	人		◎ 計れる	1	◎ 計れる	3	
		実績値	653	1,948	2,222	2,243	446	● 計れない			2	● 計れない	1		
		達成率	23.1%	69.8%	80.7%	82.5%	100.0%	△ わからない	5		△ わからない	4			

＜意見＞

◎一般的な施設利用状況を示すもので指標としては良いと思う。利用者アンケートをとることで、次へのアクションが具体的に描けるかもしれない。
 ◎効果や成果を利用者数だけで判断するのは難しい分野だが、人数が増えている状況からは、共に計れていると思う。実際に役立っているのかどうかは、別のアンケートが必要だと思う。
 ●ライフステージに応じた支援の拡充や地域の希薄化への対応、子育て支援ネットワークづくりを目指すのであれば、成果指標⑤預かり保育対象者、成果指標⑥支援センター利用者だけでなく、地域にあるステージ毎の子育て支援団体数とどれ程の方が利用しているのか、その割合が分かるとよい。
 ●腰越子育て支援センターの開所に伴い、令和6年6月に終了したつどいの広場について、令和6年度の目標値と実績値には実際の利用者数が記載されているため成果指標とはいえない。つどいの広場と子育て支援センターを同じ目的で設置していたのならば、わざわざ分けずに、利用者数の合計を目標値として設定してもよかったのではないかと。
 △わかりやすい指標である。一方、子育て支援センターの利用者数の変動が、どのような意義があるかが分かりにくい。
未就学児を持つ保護者の居場所として定着してきている。安心して子どもと一緒に過ごせる場所であり、利用者数も増えていて、定期的なイベント開催など創意工夫がうかがえる。

総合計画上の位置付け	分野	4-(3) 学校教育	施策の方針	4-(3)-①教育内容・環境の充実
目標とするまちの姿	学校・家庭・地域の連携により、安全で安心な学校づくりが進められ、小・中学校に通う児童・生徒のだけれども、健やかで楽しく、充実した学校生活を過ごしています。学校では、子どもたちの学ぶ意欲を高めながら、子どもたちへのきめ細かい指導により、生きる力を育てています。			

成果指標①	将来に夢や目標を持てる児童生徒の割合							出典	全国・学力学習状況調査 生徒質問紙		外部評価			
初期値 平成31年4月18日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
	72.8	目標値	74.0	76.0	78.0	80.0	81.0	82.0	%		◎ 計れる	1	◎ 計れる	1
		実績値	未実施	69.9	73.4	71.8	73.5				● 計れない	2	● 計れない	3
		達成率	—	91.0%	94.1%	89.8%	90.7%	%	△ わからない		5	△ わからない	4	

<<意見>>

●夢や目標を持てる児童生徒を増やすための社会を作りたいと思っている大人の割合や現状認識を計った方が指標としては意味があるようにも思う。
●学校教育の内容によって、将来に夢や目標をもつことに繋がっているかはこの指標では分からないので、純粹に、学校が子どもたちにとって楽しく学べ、充実した場所であるか、という質問の方が分かりやすい。
●成果指標と「主な取組」の因果関係が不明。目標値は全国平均に対する数値目標(%)とすべきである。
△大事な指標であるが、市の施策がどのように、この成果指標に繋がったのかが、不明である。
△成果指標に記載されている言葉そのものは、良いアンケートのように感じるが、将来の夢や希望の程度があまりに漠然としていて、結果として指標としてはなじまないと感じる。また、これが市の取組により数値が変動したのか、市の取組に関係なく、その他の外部要因がそこに影響したのかがわかりにくいと感じる。
□ICT教育も少しずつ定着している。自主的な学びが増え、サポート体制も厚くなり学習意欲も高まっていると感じる。

成果指標②	小・中学校における特別支援学級の設置率							出典	所管課調べ(学校数及び特別支援学級設置校数から計算)		外部評価			
初期値 平成31年4月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
	76.0	目標値	80.0	84.0	88.0	92.0	96.0	100.0	%		◎ 計れる	4	◎ 計れる	6
		実績値	80.0	84.0	88.0	92.0	96.0				● 計れない	1	● 計れない	0
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	%	△ わからない		3	△ わからない	2	

<<意見>>

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
◎計画が着実に推進されていると感じられる。
●支援学級の利用状況、利用した生徒の学力や資質毎に不登校の割合が減った、学内での問題が減ったなどの成果が測定できているのが本来あるべきアウトカム指標なのではないかと考える。
●特別支援学級数に応じて教員や支援員、サポーターを増やしているのかが指標で分かるのとよりよい。
●特別支援学級は支援が必要な児童に対して設置するもので、必要性に対する設置率を指標とすべき。
□特別支援学級がほとんどの学校に設置されていることは素晴らしいことだと思う反面、クラスの充実を期待したい。インクルーシブ教育については、多様性、1人1人の特性を理解した対応が出来ていないように感じる。教師の研修等、特別支援教育への理解が急務である。

成果指標③		「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか」において、ほぼ毎日と回答した児童・生徒の割合						出典		外部評価				
平成31年4月5日		年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
初期値	4.3	目標値	—	10	20	40	60	80	%		◎ 計れる	0	◎ 計れる	0
		実績値	未実施	8	26.3	31.1	32.3	● 計れない			6	● 計れない	8	
		達成率	—	80.0%	131.5%	77.8%	53.8%	△ わからない			2	△ わからない	0	

「意見」

- ICTの利用は、豊かな学びのための一つ的手段にすぎない。インクルーシブや子に応じた教育を推進するのであれば、学びの手段は多様であるべきなので、ICTの利用のみを成果指標とするのは適切ではないと考える。
 - 実際にICT教育を行うことで、どのような成果が出たかを指標として設定していただきたい。従来の教科書だけの授業にICTを利用することができた場合であれば、事業で利用した時間数がアウトプットであり、全国模試の平均点が10%上昇したがアウトカムのようなイメージである。○○コンテストにXX名参加し、□名が受賞したなどでもよい。
 - そもそも「ほぼ毎日」が必要なかどうか、また「ほぼ毎日」のための環境作りが十分なのかどうか、施策側の観点を数値化したほうがわかりやすいように感じる。
 - 「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか？」を聞くのではなく、「授業で、コンピュータなどのICTを利用し、授業が理解しやすくなった」など結果も聞いて欲しい。
- △明確な数値目標である。一方、成果指標として好ましいかどうかは不明である。

総合計画上の位置付け	分野 4-(3) 学校教育	施策の方針 4-(3)-②学校施設の管理・整備
目標とするまちの姿	学校規模の適正化とともに、学校が地域コミュニティや地域防災の核であることに配慮した、学校施設の計画的な再編や児童生徒の教育環境が良好に整備されています。	

成果指標①	小・中学校における特別支援学級教室の設置率							出典	小・中学校における特別支援学級教室の設置率		外部評価			
初期値	平成31年4月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
	76.0	目標値	80.0	84.0	88.0	92.0	96.0	100.0	%		◎ 計れる	5	◎ 計れる	6
		実績値	84.0	88.0	92.0	96.0	100.0	● 計れない			1	● 計れない	0	
		達成率	105.0%	104.8%	104.6%	104.4%	104.2%	△ わからない			2	△ わからない	2	

<<意見>>

◎目標を上回る速度で達成されたことは評価できる。
 ●支援学級の利用状況、利用した生徒の学力や資質毎に不登校の割合が減った、学内での問題が減ったなどの成果が測定できているのが本来あるべきアウトカム指標なのではないかと考える。
 ●フリースペースの導入率についてもあとよりよい。
 ●特別支援学級は支援が必要な児童に対して設置するもので、必要性に対する設置率を指標とすべき。
 △大事な指標であるが、市の施策がどのように、この成果指標に繋がったのかが、不明である。
 □特別支援学級がほとんどの学校に設置されていることは素晴らしい。さらに教室内の整備にも期待したい。

成果指標②	トイレの洋式化率							出典	所管課調べ(小中学校トイレの洋式化率及びみんなのトイレ整備状況から計算)		外部評価			
初期値	平成31年4月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
	49.8	目標値	57.6	70.4	70.4	70.4	70.4	70.4	%		◎ 計れる	3	◎ 計れる	3
		実績値	70.4	69.9	70.1	70.1	71.4	● 計れない			2	● 計れない	1	
		達成率	122.3%	99.3%	99.6%	99.6%	101.5%	△ わからない			3	△ わからない	4	

<<意見>>

◎着実に目標が達成されており評価できる。
 ●指標としては、この事業を行った結果としてのアウトカムを示していただく必要がある。
 △大事な指標であるが、市の施策がどのように、この成果指標に繋がったのかが、不明である。

成果指標③	みんなのトイレの設置率							出典	所管課調べ(小中学校トイレの洋式化率及びみんなのトイレ整備状況から計算)		外部評価			
初期値	平成31年4月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
	80.0	目標値	88.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	%		◎ 計れる	3	◎ 計れる	3
		実績値	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	● 計れない			1	● 計れない	1	
		達成率	109.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	△ わからない			4	△ わからない	4	

<<意見>>

●成果指標②と同様、アウトカムで測定するべきではないか。
 ●成果指標②③のトイレの指標については一つに絞る、インクルーシブ教育や地域の防災拠点である観点からすると、車いすユーザーや身体の不自由な方のためのバリアフリー設備の拡充についての指標がある方がよい。
 △大事な指標であるが、市の施策がどのように、この成果指標に繋がったのかが、不明である。
 △目標値・実績値がずっと変わっておらず、成果指標として設定が適しているのか疑問である。

総合計画上の位置付け	分野	4-(4) 青少年育成	施策の方針	4-(4)-①青少年の育成・支援
目標とするまちの姿	青少年一人ひとりが多様な体験や活動を通じて、夢や希望を持って様々なことに挑戦し、多くの人々との関わりの中で地域を支えられるような大人に成長しています。 地域に青少年が集うことのできる居場所や社会参画の機会・仕組みが整っています。			

成果指標①		放課後かまくらっ子に参加した中学生の数						出典		外部評価				
令和元年8月31日		年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
初期値	30	目標値	50	50	70	70	100	100	人		◎ 計れる	3	◎ 計れる	3
		実績値	未実施	9	88	193	393	● 計れない			3	● 計れない	3	
		達成率	—	18.0%	125.7%	275.7%	393.0%	%	△ わからない		2	△ わからない	2	

＜意見＞

◎年々、実績値が増えている点は評価できる。
 ●成果指標②も含め、成果指標が放課後かまくらっ子に特化されているが、目標は「地域に青少年の集うことのできる居場所や社会参画の機会の仕組みづくり」を掲げているので、今現在地域に青少年が携わる場や機会がどれ程あるのかが分からないと目標に対しての成果が分からない。
 ●「青少年の居場所づくり」の取組の成果だと思うが、「青少年」という幅広い世代を対象としているのに、「中学生の数」だけでは全体の効果および成果を判断するのは難しい。放課後かまくらっ子以外に参加した人数の集計も指標に欲しい。
 ●参加対象となる中学生が毎年変動する。また、のべ人数とは別に実人数の統計も必要である。
 △明確な数値目標である。一方、十分に説明力のある成果指標として好ましいかどうかは不明。
 △施策の効果は、目標値の設定に意味があるのであれば、客観性もあり測定できるものとする。一方で取組の成果については、主な取組の何が作用してこのような数値となったかが説明できない限り、成果が測定できるとは考えにくい。ある活動により増加した減少したというのであれば、前年度比較などによる増減比較で取組や活動の成果が測定できるのではないかと考える。
 □地域活動に中学生が参加し、貢献することは大事であるので今後も1回限りではなく継続的な関わりや自発的な企画イベントの開催などができるようにしてほしい。

成果指標②		放課後かまくらっ子の推進支援に参画した大学生の数						出典		外部評価				
平成31年4月1日		年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
初期値	100	目標値	160	200	200	230	230	250	人		◎ 計れる	3	◎ 計れる	2
		実績値	160	700	800	1,493	1,412	● 計れない			2	● 計れない	2	
		達成率	100.0%	350.0%	400.0%	649.1%	613.9%	%	△ わからない		3	△ わからない	4	

＜意見＞

◎年々、実績値が増えている点は評価できる。
 ●参加対象となる大学生が毎年変動する。また、のべ人数とは別に実人数の統計も必要である。
 ●「地域の担い手となる青少年の育成」の取組の成果だと思う。あくまでも数値上だが、成果指標②とのバランスを考えると、成果指標①の数をもっと増やさないかと、逆に「育成の機会」が減ってしまうように見える。
 △明確な数値目標である。一方、十分に説明力のある成果指標として好ましいかどうかは不明。
 △施策の効果は目標値の設定に意味があるのであれば、客観性もあり測定できるものとする。一方で取組の成果については、主な取組の何が作用してこのような数値となったかが説明できない限り、成果が測定できるとは考えにくい。ある活動により増加した減少したというのであれば、前年度比較などによる増減比較で取組や活動の成果が測定できるのではないかと考える。
 □成果指標①と同様に地域活動に大学生が参加し、貢献することは大事であるので今後も1回限りではなく継続的な関わりや自発的な企画イベントの開催などができるようにしてほしい。

成果指標③		居場所に関するアンケート調査において「居心地の良い場所があるか」との問いに対し「いいえ」と回答した割合						出典		外部評価				
令和2年度		年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
初期値	5	目標値	5.0	5.0	4.0	4.0	3.0	3.0	%	令和4年度は中学生を対象としたアンケートを実施	◎ 計れる	1	◎ 計れる	0
		実績値	5.0	2.0	未実施	2.0	2.0	● 計れない			6	● 計れない	7	
		達成率	100.0%	250.0%	—	200.0%	150.0%	%	△ わからない		1	△ わからない	1	

＜意見＞

●アンケート対象者も偏りを感じるため実績値達成の要因が施策に対する成果とはいえない。
 ●「二十歳のつどいアンケート」には、この問い以降も関連した質問事項があるので、それらもまとめて成果指標としたほうが、施策や取組との関連がわかりやすい可能性がある。
 ●「二十歳のつどい」に参加するようの方はそもそも積極性を備えているので、「ある」と回答する割合が高い。アンケートは全てポジティブ又はネガティブに揃えた設問にすべきである。(統計がとれない)
 △あくまでもアンケート結果による評価である。このアンケート調査結果が成果指標として好ましいかどうかは不明。
 △「居心地の良い場所」の定義が分からないため、判断をしかねる。プライベートな領域をさすのか、公的な場をさすのか、質問の意図が曖昧なため、公的な居場所づくりを目標とする取組の成果指標としては評価しづらい。また、この目標値は何の取組の結果として、この%が示されているのかも分からない。

総合計画上の位置付け	分野	5-(1) 防災・安全	施策の方針	5-(1)-①防災・減災対策の充実
目標とするまちの姿	災害時の市民の生命や財産を守るため、自助・共助・公助の視点で、ハード・ソフトの両面から総合的な自然災害対策が講じられています。また、各種訓練等の実施により市民の防災意識とともに防災力が向上し安全・安心なまちが実現しています。			

成果指標①		公共建築物の耐震化率(災害時の拠点となる施設) (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)					出典		鎌倉市耐震改修促進計画に基づく実績		外部評価			
令和元年度末	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
初期値	96.4	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%	所管は公的不動産活用課	◎ 計れる	3	◎ 計れる	3	
	実績値	97.6	97.6	97.6	97.6	97.6	● 計れない			3	● 計れない	3		
	達成率	97.6%	97.6%	97.6%	97.6%	97.6%	△ わからない			2	△ わからない	2		

<<意見>>

●実績値が5年間動きがないということは、取組が出来ていないか成果指標が適切でないからだと感じる。
●「目標とするまちの姿」及び「主な取組」は、「公共建築物」に限ったものではなく「市全域」に対するものである。
△目標値と実績値の乖離があるが、このようなインフラ整備やそれに準ずるようなものは予算の手当ての見込みに沿って目標値が設定されるべきだと考える。この手の事業はアウトプット測定のみでアウトカム測定は長期的な測定となるため、無理なアウトカム測定を行い、無理やり評価する必要はないものとする。
△わかりやすい指標である。常に高い数値の指標であり、目標値と実績値が長く変化がないため、指標として好ましいかよくわからない。

成果指標②		市内の通学路における危険ブロック塀等の改善率					出典		通学路の危険ブロック等改善率		外部評価			
令和元年9月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
初期値	56.9	目標値	60.5	63.0	65.5	68.0	70.5	%		◎ 計れる	2	◎ 計れる	4	
	実績値	59.6	60.5	62.2	70.6	72.4	● 計れない			2	● 計れない	1		
	達成率	98.5%	96.0%	95.0%	103.8%	102.7%	△ わからない			4	△ わからない	3		

<<意見>>

△明確な数値目標である。一方、成果指標として好ましいかどうかは不明である。
△本当の意味でのアウトカムは、例えば、これまでブロック塀が壊れたことによる傷害等の事故件数がxx件/年あったものが、改善することによって件数がx件/年に減ったといった傷害事故件数の減少、道路の封鎖回数などになると思う。このような視点で測定されることが望ましいが、今記載されている成果指標はあくまでのアウトプットが測定されているにすぎないことを理解したうえで利用する必要があると考える。
□改善率の上昇がゆっくりに見えるが、着実に上昇していることはわかる。ただ、いつまでもおかしくない大震災への対応としてはスピード感が不足しているように感じる。

成果指標③		自宅周辺の自然災害リスクを知っている市民の割合 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)					出典		市民アンケート調査		外部評価			
令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数	
初期値	75.0	目標値	80.0	85.0	90.0	95.0	100.0	%		◎ 計れる	2	◎ 計れる	1	
	実績値	未実施	75.3	74.5	77.2	79.6	● 計れない			4	● 計れない	5		
	達成率	—	88.6%	82.8%	81.3%	79.6%	△ わからない			2	△ わからない	2		

<<意見>>

◎アウトプットが周知のためのハザードマップの作成及び配布ということであれば、それを実施した年はその件数等を指標としたらよいと思う。一方で本指標はその取組の結果として、リスクの状況をどれほどの市民が把握しているかを測定しているのであれば、アウトカム指標としては問題ないものとする。
●市民アンケートによるもので、市民の実感に基づくもの。どの施策がこの効果、成果に結びついているのかわからない。
●リスク評価が更新されることがあるので、現状を正確に知っているのかどうか(周知されているかどうか)はアンケートでは判断できない。例えば、「かまくらわが街マップ」のアクセス数などを指標にするなど、その時々に関心度を指標とした方が、施策や取組の影響が計れるのではないかと考える。
△どの様な形で市は自宅周辺の自然災害リスクを確認し、周知しているのか不明である。そもそも自宅周辺にリスクがない方にアンケートをしても「知らない」と答える。
□少しずつであるが着実に実績値が上がっていることは評価できる。災害リスクへの意識の高い他自治体の活動事例なども参考に、実績が上がる取組により力をいれてほしい。

総合計画上の位置付け	分野	5-(1) 防災・安全	施策の方針	5-(1)-②危機管理対策
目標とするまちの姿	武力攻撃事態やテロなどあらゆる危機事象を想定した体制や、制度が国・県・関係機関等との連携により整備され、市民の生命・財産が安心して守られる状態になっています。			

成果指標①	危機管理体制整備のための取組が適切になされていると思う市民の割合							出典	市民アンケート調査		外部評価			
初期値	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
	16.0	目標値	22.0	28.0	34.0	40.0	46.0	52.0	%		◎ 計れる	0	◎ 計れる	0
		実績値	未実施	21.1	22.8	19.5	23.8	● 計れない			6	● 計れない	5	
達成率	—	75.4%	67.1%	48.8%	51.7%	△ わからない	2	△ わからない	3					

＜意見＞

●市民アンケートによるもので、市民の実感に基づくもの。どの施策がこの効果、成果に結びついているのかわからない。目標値がどのように設定されているのか。
●ここでいう危機管理というものがどういうものなのか、市民が正しく理解・情報共有出来ているのか疑問である。また、取組の内容も指標実績値に影響を及ぼすものなのかも評価シートからは読み取れなかった。
●何をもち「危機管理体制整備のための取組が適切になされている」という定義が無い。「危機」というものが個人の印象によるものであり客観性がない。
●「取組が適切にされていると思うか？」という質問では、市民が具体的に市がどのような取組を行っているかを理解していない中で、極めてぼんやりした質問であると思う。具体的な取組を示して、それらが適切に整備されていると思うかどうか、または、取組を知らないというような質問であれば、良いかもしれない。
●まずはBCPと体制を整備すること、危機意識の醸成という取組を細分化して指標にすることが良いかと思う。
●具体的な事例が発生した後でないと、それが適切かどうかを判断することは難しいと思う。アンケートとしては回答も難しいのではないかと思う。例えば、今回の断水事業において、行政としての行動をタイムラインにまとめて公表したり、行政は適切に対応できたかどうかのアンケート(ポイントごとの)をとるなど、都度調べていくしかないと思う。
●危機管理体制整備の為の取組を市民が理解しているのか疑問である。災害時に「避難行動が適切にとれたか？」や「地域の防災力に満足している市民の割合」などがよいのではないか。

総合計画上の位置付け	分野	5-(2) 市街地整備	施策の方針	5-(2)-①市街地整備の推進
目標とするまちの姿	社会環境の変化や地域ニーズに対応したまちづくりを推進していくとともに、災害に強い安全・安心で強靱(レジリエンス)なまちづくりに取組ます。また、深沢地域のまちづくりを牽引力とした未来志向のまちづくりを進めることにより、市域全体の魅力を高めるまちづくりを行います。			

成果指標①	まちづくりが計画的に進められ、生活しやすい市街地が形成されているまちだと感じている市民の割合(鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)							出典	市民アンケート調査		外部評価			
初期値	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果	人数	取組の成果	人数
	25.9	目標値	26.0	26.5	27.0	27.5	28.0	28.5	%		◎ 計れる	0	◎ 計れる	0
		実績値	未実施	35.2	36.0	33.6	34.7	● 計れない			4	● 計れない	3	
達成率	—	132.8%	133.3%	122.2%	123.9%	△ わからない	4	△ わからない	5					

＜意見＞

●市民アンケートによるもので、市民の実感に基づくもの。どの施策がこの効果、成果に結びついているのかわからない。
●5年間、35パーセント前後を行き来していることから、取組と実績の関連がないように思える。
●鎌倉には5つの地域があり、その地域の中でも旧市街と新市街があり、どこの地域に住んでいる人をアンケートの対象としているのか不明であり、対象によって偏りがでる。
●目標とするまちの姿を目指して取り組んでいることを質問しているのか、それが実現されたことを質問しているのか、またはその両方を質問しているかで異なると思う。取組との関連が明確な指標設定が良いと考える。
●主な取組にある3つの取組をブレイクダウンした指標が必要だと思う。
●なかなか具体的な数値化がしにくいと思うが、アンケートの問いとしては、取組を項目ごとに分けて回答し、地域ごとに集計したほうが、指標としては適しているように思う。
●まちづくりのどの面を評価しているのかわからない。住みやすい街にする取組をされているので、成果指標①と併せて客観的な数値指標があるとよいと思う。

総合計画上の位置付け	分野	5-(3) 総合交通	施策の方針	5-(3)-①交通環境の整備
目標とするまちの姿	交通安全意識の普及徹底を図るとともに、交通需要マネジメント施策が進み、交通環境の改善が図られています。特に新たな交通(移動)システムや手段が有効に機能し、鎌倉らしい交通環境整備が進んでいます。			

成果指標①	市内における自動車の旅行速度 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)							出典	ETC2.0を搭載した車両の走行データ		外部評価			
初期値	平成29年4月～平成30年3月の休日118日間の平均	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果	
	18.1	目標値	18.1	18.1	20.0	20.0	20.0	20.0	km/h		◎ 計れる	1	◎ 計れる	1
		実績値	未実施	未実施	17.5	17.4	17.0				● 計れない	5	● 計れない	6
		達成率	—	—	87.5%	87.0%	85.0%		%		△ わからない	2	△ わからない	1

<<意見>>

- ◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 ●実績値に動きがないことから、取組の効果を図る指標にはなっていないと思える。
 ●旅行速度を上げるための施策の内容が見えない。また、主な取組と、旅行速度の関連性が不明である。
 ●自動車の旅行速度によって目標に対して何の指標としているのかが分からない。
 △測定位置や時間等の情報が付加されていないため判断出来無い。取組と効果の因果関係が不明である。

成果指標②	幹線道路については、スムーズな交通環境が、また、生活道路については、安全な歩行空間が、確保されているまちだと感じている市民の割合							出典	市民アンケート調査		外部評価			
初期値	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果	
	13.5	目標値	14.5	15.5	37.0	38.0	39.0	40.0	%		◎ 計れる	1	◎ 計れる	1
		実績値	未実施	18.8	17.8	18.4	18.8				● 計れない	5	● 計れない	5
		達成率	—	121.3%	48.1%	48.4%	48.2%		%		△ わからない	2	△ わからない	2

<<意見>>

- 市民アンケートによるもので、市民の実感に基づくものである。どの施策がこの効果、成果に結びついているのかわからない。
 ●全く異なる問題(幹線道路に関する問、生活道路に関する問)に対して、一つの質問として訊くことは望ましくない。
 ●実績値に動きがないことから、取組の効果を図る指標にはなっていないと思える。
 ●このために、何をやっているのかが不明である。アンケートの結果からも、その何かの効果が出ているとは思えない。
 ●令和2年～6年度まで実績値はほとんど変わっておらず、一市民としてもこれらが確保されている状況とは言えないと感じている。取組に対する指標としては評価しづらい。
 ●現状の把握についてはある程度できるが、取組と効果の因果関係が不明である。
 ●目標値があがっているが、実績値が追いついていない(横ばい)ように思う。

成果指標③	新たな交通(移動)システムや手段を導入した地区数							出典	オンデマンドモビリティ等の市内の導入実績		外部評価			
初期値	令和元年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果	
	0	目標値	0	1	2	3	3	3	地区		◎ 計れる	1	◎ 計れる	3
		実績値	0	0	0	0	0	0			● 計れない	6	● 計れない	4
		達成率	—	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		%		△ わからない	1	△ わからない	1

<<意見>>

- ◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 ●市がどのような計画を策定していたのか承知していないが、導入する具体的な予定もないにもかかわらず成果指標だけを作ったという気がする。
 ●実績がなく評価ができない。
 □導入した地域について導入前と導入後に成果指標指標①と②について確認すべきである。

総合計画上の位置付け	分野	6-1) 産業振興	施策の方針	6-1)-②商工業振興の充実
目標とするまちの姿	中小企業の経営革新や経営基盤の強化が図られるとともに、市内企業の事業拡大や新たな産業の立地等により、産業が活性化し、雇用の創出が図られています。 また、新たな魅力の創出による商店街の活性化、伝統的工芸品の保護・育成が図られています。			

成果指標①		市内事業所における従業者数 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)						出典		経済センサス活動調査		外部評価			
初期値	平成28年	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果		
	68.800	目標値	69,000	69,200	69,400	69,600	69,800	70,000	人	令和3年度実績値は令和3年経済センサス活動調査確報値	◎ 計れる	1	◎ 計れる	2	
		実績値	未実施	67,396	未実施	未実施	未実施				● 計れない	2	● 計れない	2	
		達成率	—	97.4%	—	—	—				△ わからない	5	△ わからない	4	

<<意見>>

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 ●実績値が取れないのであれば、測定ができないため、評価指標としては望ましくないとする。
 ●従業員数の推移は、市内の雇用や経済状況を判断する指標のひとつとしては必要だと思う。しかしながら、継続した実績値が無いので、これだけでは何かを判断することはできない。
 △割合や数値がなく総従業者数のみだと成果指標としては評価しづらくわからない。
 △取組と効果及び成果の因果関係が不明である。

成果指標②		市内の事業所数 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)						出典		経済センサス活動調査		外部評価			
初期値	平成28年	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果		
	7.226	目標値	7,250	7,270	7,290	7,310	7,330	7,350	事業所	令和3年度実績値は令和3年経済センサス活動調査確報値	◎ 計れる	1	◎ 計れる	2	
		実績値	未実施	7,137	未実施	未実施	未実施				● 計れない	2	● 計れない	2	
		達成率	—	98.2%	—	—	—				△ わからない	5	△ わからない	4	

<<意見>>

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 ●事業所数の推移は、市内の雇用や経済状況を判断する指標のひとつとしては必要だと思う。しかしながら、継続した実績値が無いので、これだけでは何かを判断することはできない。
 △割合や数値がなく総従業者数のみだと成果指標としては評価しづらくわからない。
 △取組と効果及び成果の因果関係が不明である。
 □実績値が取れないのであれば、測定ができないため、評価指標としては望ましくないとする。どのような業種がどう増減しているかという視点での調査があることで、主な取組の(2)や(3)の成果を測定することが可能かもしれない。

成果指標③		身近な商店街において、便利で魅力的な買い物ができると思う市民の割合						出典		市民アンケート調査		外部評価			
初期値	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果		
	49.1	目標値	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0	55.0	%		◎ 計れる	3	◎ 計れる	0	
		実績値	未実施	53.0	57.4	55.9	52.6				● 計れない	4	● 計れない	5	
		達成率	—	103.9%	110.4%	105.5%	97.4%				△ わからない	1	△ わからない	3	

<<意見>>

◎商店街がある・なしといったことで、地域差が出そうなアンケートではあるが、このような指標があっても良いと思う。取組を行った地域とそうでない地域で、魅力が増加したかそうでないかを測定すると、取組の効果をより適切に評価できるものとする。
 ●市民アンケートによるもので、市民の実感に基づくものである。どの施策がこの効果、成果に結びついているのかわからない。
 ●実績値が示されていないため、何も評価できない。
 ●「身近」、「便利」、「魅力」の3つの問いが含まれているため、回答者の判断が一定にならないように思う。身近な商店街がある人を対象に、便利かどうか、魅力的な買い物ができるかどうか、などを聞いたほうが効果や成果がわかるのではないかとと思う。
 ●なぜそう感じ、何が改善されたかがわかりにくい。商店街の取組や、商店街の来街者数などの客観的数値を併せた指標があるとよいと思う。

総合計画上の位置付け	分野	6-(2) 観光	施策の方針	6-(2)-①観光振興の推進
目標とするまちの姿	多様なプログラムと効果的な情報の提供により、訪れた観光客が、鎌倉の歴史や伝統などを十分に満喫できる、魅力あふれる都市になっています。 また、観光客と市民との情報共有や交流が進み、地域全体で観光振興に取組、地域の活性化が図られています。			

成果指標①		一人当たり観光消費額(宿泊客)							出典		鎌倉市の観光事情		外部評価		
初期値	令和元年8月21日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果		
	23.683	目標値	24,500	25,000	25,500	26,000	26,500	27,000	円	実績値については、9月末に数値が確定する予定です。	◎ 計れる	2	◎ 計れる	1	
		実績値	20,815	20,950	24,678	38,523	未定		%		● 計れない	2	● 計れない	3	
		達成率	85.0%	83.8%	96.8%	148.2%	—				△ わからない	4	△ わからない	4	

<<意見>>

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 ◎昨今の世の中の動きから考えると、取組の成果というよりは円安によるインパウンドの影響の方が大きいように思える。ただ、成果指標の内容としてはあっていると思う。
 ●具体的な取組として、何をしたか(アウトプット)を測定する示す必要がある。
 ●物価の上昇や宿泊代が高騰している(市外も同等)ので判断が難しいが、日帰り客と同等に推移していると見て問題ないと思う。ただ、ここから外的な要因(物価高等)を除いた場合の指標がないと、市としての施策の効果や取組の効果は計れないと思う。
 △観光消費額を指標とすることで目標とするまちの姿の何を求めたいのか読み取りづらい。
 □宿泊客が増えているのは、ホテル、民泊等の増加によるもので鎌倉市の目標である。鎌倉の歴史や伝統を満喫できることとは別なのではないか。それよりも民泊が増加していることでの周辺住民が迷惑している(ゴミ出し、騒音)などへの対策が求められる。

成果指標②		一人当たり観光消費額(日帰り客)							出典		鎌倉市の観光事情		外部評価		
初期値	令和元年8月21日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果		
	6.243	目標値	6,500	6,750	7,000	7,250	7,500	7,750	円	実績値については、9月末に数値が確定する予定です。	◎ 計れる	3	◎ 計れる	2	
		実績値	5,116	6,428	7,267	7,773	未定		%		● 計れない	2	● 計れない	3	
		達成率	78.7%	95.2%	103.8%	107.2%	—				△ わからない	3	△ わからない	3	

<<意見>>

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 ◎昨今の世の中の動きから考えると、取組の成果というよりは円安によるインパウンドの影響の方が大きいように思える。ただ、成果指標の内容としてはあっていると思う。
 ●具体的な取組として、何をしたか(アウトプット)を測定する示す必要がある。
 ●現状では効果も成果も判断できるが、市内に限って判断するとなると、消費額以外の指標も必要になっていると思う。また、ここから外的な要因(物価高等)を除いた場合の指標がないと、市としての施策の効果や取組の効果は計れないと思う。
 △観光消費額を指標とすることで目標とするまちの姿の何を求めたいのか読み取りづらい。

成果指標③		観光客の平均滞在時間数							出典		鎌倉市の観光事情		外部評価		
初期値	令和元年8月21日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果		
	4.9	目標値	5.0	5.1	5.2	5.3	5.4	5.5	時間	実績値については、9月末に数値が確定する予定です。	◎ 計れる	4	◎ 計れる	3	
		実績値	4.3	4.8	4.9	4.8	未定		%		● 計れない	1	● 計れない	2	
		達成率	86.0%	94.1%	94.2%	90.6%	—				△ わからない	3	△ わからない	3	

<<意見>>

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 ◎目標の設定自体は間違っていないと思うが、成果が出ていないので、取組内容を検討すべきかもしれない。
 ◎滞在時間に関しては、ホスピタリティや多様な観光資源を表す重要な指標だと思う。ただ、効果や成果は測れると思うが、実際の効果や成果が出ていない状況だと思う。
 ●4.8時間ほどの滞在時間が何を意味するのかが分からない。
 ●具体的な取組として、何をしたか(アウトプット)を測定する示す必要がある。
 □観光客を増やし、滞在時間を長くしてもらうことが目標なのか？オーバーツーリズムとの兼ね合いでどのようなバランスでの観光が望ましいのかを明確にしてほしい。

総合計画上の位置付け	分野	6-(2) 観光	施策の方針	6-(2)-②観光基盤の整備・充実
目標とするまちの姿	世界中から訪れる観光客、子どもから高齢者・障害者など、すべての来訪者が安全で快適に過ごすことができる環境が整備されています。また、自然災害等が発生した際の体制が整えられており、観光客が安心して観光できるまちとなっています。			

成果指標①		公衆トイレのバリアフリー化率					出典	所管課調べ		外部評価				
初期値	令和元年12月19日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果	
	61.7	目標値	61.7	61.7	64.7	64.7	67.6	67.6	%	23/35	◎ 計れる	5	◎ 計れる	4
		実績値	61.7	61.7	61.7	63.6	65.7	● 計れない			2	● 計れない	3	
		達成率	100.0%	100.0%	95.4%	98.3%	97.2%	△ わからない			1	△ わからない	1	

「意見」

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 ◎トイレはすべての人が利用するものであるため、バリアフリー化率の向上が「目標とする街の姿」の実現に寄与するものとして成果指標とすることは妥当である。
 ●公衆トイレの総数自体は市内に増えているのか。総数に変化がないのなら、比較的計画しやすい実績設定である中、目標値に達していない点は評価できない。
 ●公衆トイレのバリアフリー化率が上がっているのは評価できるが、これだけで観光基盤のバリアフリー化を判断するのは難しく、「安全で快適に観光」のひとつの構成要素ではない。
 ●「目標とするまちの姿」の「快適に過ごすことができる環境が整備」の一部については計る事が出来る。しかし、その成果については何の情報もないため計れない。

成果指標②		観光案内看板の多言語対応率					出典	所管課調べ		外部評価				
初期値	令和元年12月19日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	施策の効果		取組の成果	
	97.0	目標値	97.0	97.6	98.5	99.5	100.0	100.0	%	205/208	◎ 計れる	4	◎ 計れる	5
		実績値	97.6	97.6	98.0	98.0	98.6	● 計れない			4	● 計れない	3	
		達成率	100.6%	100.0%	99.5%	98.5%	98.6%	△ わからない			0	△ わからない	0	

「意見」

◎明確な数値目標であり、指標として好ましい。
 ●多言語と言っても3~5か国語であるため、そもそも案内板が世界中に対応している訳ではない。
 効果及び成果についても案内板をどれくらいの人々の旅行者が見たのか？案内板が役に立っているのか不明である。
 ●単に多言語化が目標ならば、この指標には意味があると思う。しかし、整備が充実しているかどうかは、その看板を利用している人からのフィードバックがないと、効果や成果を判断するのは難しいのではないかと。特に多言語化により安全・安心が確保できることに結びつけていることが表せる指標が必要だと思う。
 ●ほとんどの人がスマートフォンを保有しており、デフォルトで入っている翻訳アプリでほとんどのものをその場で訳すことができる時代であるため、多言語対応の看板設置にそれほど力を入れなくて良いと思う。
 ●スマートフォンアプリ等の代替手段もある中、観光案内板は記載言語に限りがあるうえ、公衆トイレに比べ、すべての人が利用するとは限らないことから、観光案内板の多言語対応率の向上が「目標とする街の姿」の実現に寄与するとは言いきれないため、成果指標とすることは適当ではない。
 □5年かけて1パーセントしか増えてないため、取組方法が効果的でないのではないかと。
 □様々な国の海外の方が来られ、対応されていることは素晴らしいことだと思う。